

一 大学と附属学校園の連携

学部と附属学校園の連携の必要性が叫ばれて久しい。附属中学校では、研究面だけでなく授業でも学部との連携を深め、附属の生徒が大学の先生方からご指導いただく場を設けたいと考え、取り組んできた。

これまでも、眞鍋昌弘先生は、空襲体験や平家物語についてのお話をしてくださった。また、田淵五十生先生は、国際理解の進め方について、生

たいと考えた。また、これまでは個別に先生方に依頼しての取り組みであったのを一歩進め、学部と附属の連携による計画的・組織的活動の場を設定する糸口とすることを目標とした。そこで、年度初めに、教育実践総合センターの小柳和喜雄先生に趣旨を伝え、メール等を通じ学内に広く声をかけていただいた。その結果、十二名の先生方のご快諾をいただき、次のような豊かな内容の講座を二〇〇二年六月七日、十一日の両日に開講することができた。



堀端眞彦先生による授業（「新金属の開発の歴史」）

附属中学校と大学の連携授業の試み

学問の世界にふれる特別講座

附属中学校・教諭 植西 浩一

徒たちに直接指導してくださった。いずれも、中学生の学習意欲を喚起し、学びへ誘う貴重な場となった。

そして、本年度は、三年生の総合的な学習の時間の「卒業研究」の一環として、大学の先生方による「特別講座」と位置付けた。最先端の学問に出会い、研究することの意義や楽しさにふれ、大学の空気を肌で感じ、進路を考える場にしたと考えていたのである。

二 特別講座開講

特別講座では、できるだけ多岐にわたる分野の先生方に、お話を願

六月七日（金）特別講座第一回

川北 泰彦先生「漫画と歌と唐詩と」

今 正秀先生「真実を見る目、うそを語る口」

岩本 廣美先生「奈良町の今昔」

西田 史朗先生「海のはなし」

谷口 義昭先生「私が行ってきた木材研究」

堀端 眞彦先生「新金属の開発の歴史」

六月十一日（火）特別講座第二回

加藤 久雄先生「日本語の「観察」と「発見」」

田淵五十生先生「国際理解と関わって」

松村 竹子先生「川はよんでいる」

岡村 泰斗先生「冒険教育」

鈴木 洋子先生「バキスタンの文化」

竹原 威滋先生「ブリュッセルと「フランクフルト」

三 学問の世界にふれて

講座は、午後、二時間連続で実施、生徒たちは先生方のお話に聞き入り熱心に記録を取った。生徒たちの声の一端を生徒自らの記録の中から拾っておきたい。

「歴史に関する様々な意見について答えてくださったのがうれしかった。知らないことだらけだったが、一つ一つ理解していった、色々な方向から物事を見ることの大切さを知った。」「今回の講座でいちばん印象に残っているのは、牛の形をしたはりがねが、その形にもどったことで

す。形状記憶っていうのはめがねのフレームとかでしか聞いたことなかった。実際に見てびっくりしました。また、私たちの身の回りにはたくさん金属があるんだなと思いました。」「特におもしろいと思ったことは、『お父さん』と『父』の違い



加藤久雄先生による授業（「日本語の「観察」と「発見」」）

い。形式的にしか分からなかったのに、呼べるか、呼べないかという視点で考えるのにはびっくりした。」
今回の講座で学んだことに触発され、生徒たちは現在、それぞれのテーマを持って卒業研究に取り組んでいる。また、九月二十四日には、大学の研究室を訪問し直接先生方からご指導を受けた。生徒たちが先生方との出会いを大切に、さらに学びを深めてくれることを願っている。